

「土砂災害から命を守るために」

渋川市立渋川中学校 一年 奥田 優歌

近年、日本各地で大雨による災害が増えている。ニュースやSNSを見ると、山がくずれて住宅地を押し流すような映像が流れ、多くの人が被害を受けていることがわかる。その中でも特におそろしいのが土砂災害だ。土砂災害は一瞬のうちに発生し、にげる時間さえうばってしまうことがある。私はこれまで土砂災害を、どこか遠い場所で起きる出来事のように考えていた。しかし、日本は山が多い地形であり、私たちの身近な地域でも起こりうる災害だということを知った。今回の作文では、まず土砂災害の種類や原因について調べ、次に防止方法や私たちができる取り組みについて考えていきたい。そして最後に、土砂災害と向き合うために私自身が大切だと思うことをまとめたい。

まず、土砂災害の種類について調べてみた。代表的なものは三つある。一つ目は「がけくずれ」で、大雨や地震によつて急な斜面が突然くずれる現象だ。二つ目は「土石流」で、大雨で水を含んだ土砂や岩が川を一気に流れ落ちてくる。三つ目は「地すべり」で、斜面全体が発生すると住宅や道路を壊し、人命をうばうおそれがある。実際に日本では多くの土砂災害が起きている。二十四年の広島市で発生した大規模な土砂災害では、短時間の集中豪雨によつて山の斜面がくずれ、多くの家が押し流された。亡くなった人の中には、ひなんする時間がなかった人もいたという。さらに近年は気候変動の影響で、これまでに経験したことのない大雨が増えており、災害の危険性は高まっている。では、なぜ土砂災害は発生するのか。主な原因は大雨による地盤のゆるみだ。土に水がしみこむと重くなり、くずれやすくなる。また人間の生活や開発も原因の一つだ。森林を伐採すると木の根がなくなり、土を支える力が弱くなる。さらに、山や川の近くに住宅を建てることで人が危険にさらされやすくなっている。つまり、自然現象だけでなく、人間の暮らし方も災害の大きな要因になっているのだ。こうした状況の中で、国や自治体はさまざまな防止対策を進めている。たとえば、土砂をせき止める砂防ダムの建設や、排水設備である。また、危険な地域を「土砂災害警戒区域」に指定し、住民に注意を呼びかけている。これらの取り組みは、私たちが災害に備えるための大切な情報源になっている。しかし、国や自治体の対策だけでは十分ではない。私たち住民が自分で備えることも重要だ。たとえば、大雨のときには天気予報や気象情報をしっかり確認し、少しでも危険を感じたら早めにひなんすることが必要だ。防災訓練で「ひなん指示が出るのを待つのではなく、自分の判断で早めに動くことが命を守る」と教えられたことがある。これは非常に大切な考え方だと思う。また、家族や地域でひなん計画を立てておくことも効果的だ。私の家族も、ひなん所まで歩いてみたことがある。普段なら何気なく通る道でも、実際に歩くと「夜や大雨のときはもつと危険かもしれない」と気づくことができた。このように、実際に体験してみることが、防災意識を高めるきっかけになる。さらに、地域での助け合いも欠かせない。高齢者や小さな子どもがいる家庭はひなんが難しい場合もある。そのときに近所の人や声をかけ合い、一緒にひなんすることが大切だ。防災は一人ではできない。地域全体で協力し合うことが、被害を少なくするための大きな力になると感じる。

土砂災害を完全に防ぐことは難しい。しかし、私たち一人ひとりが意識を高めて備えることで、被害を減らすことはできる。今回の作文を書く中で、私は土砂災害を「自分とは関係のないこと」と考えていたことに気づいた。しかし実際には、私の住む地域でも起こりうる身近な問題である。だからこそ私は、これからも防災について学び続け、自分の行動で周囲の人の役に立てるように努力していきたい。そして土砂災害から大切な命を守ることを常に心に刻んでいきたい。